

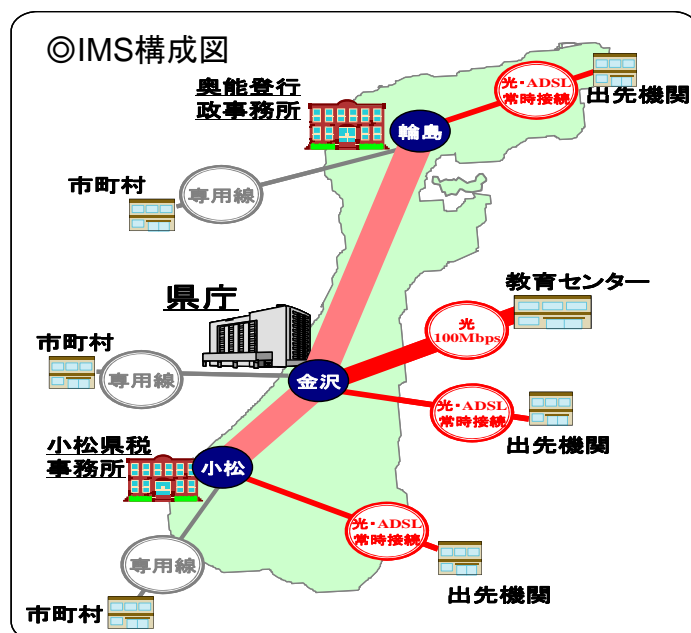
石川県における 情報システム調達の取組みについて

平成18年8月31日

石川県企画振興部情報政策課

◇情報化の主な取り組み

- ・平成15年 1月 新県庁舎への移転(汎用機からC/Sへ)
- ・平成16年 7月 電子入札システムの運用開始
- ・平成17年 1月 電子文書管理・電子決裁システムの運用開始
- ・平成17年 4月 庶務事務支援システムの運用開始
- ・平成18年 3月 「情報システム調達ガイドライン」の策定



IMS(いしかわマルチメディアスーパーハイウェイ)
出先機関(約200拠点)や県内市町村と
接続するための県域ネットワークで、現在、
36システム運用中

(1) IT調達の問題点・課題

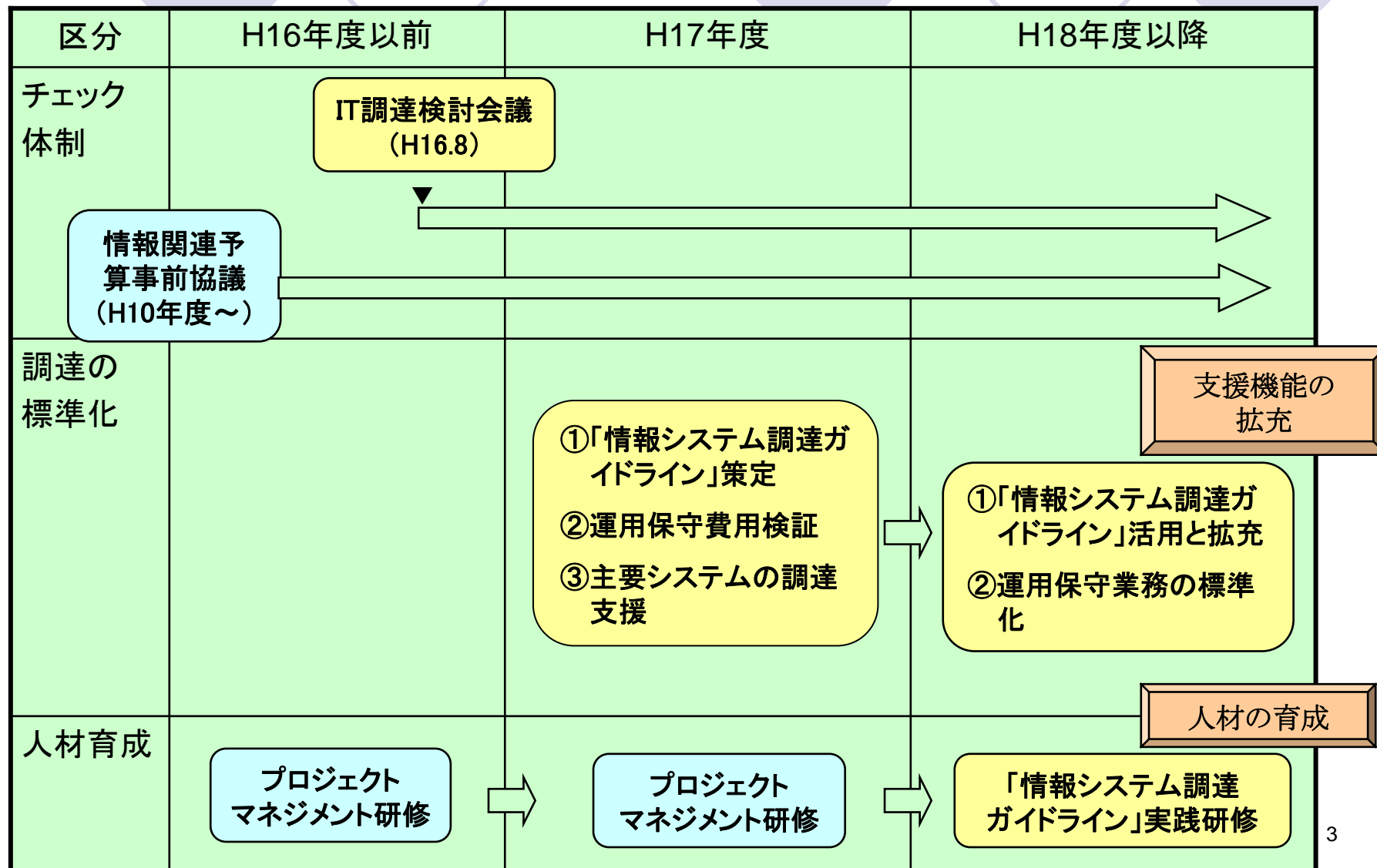
○IT調達背景

1. IT調達は基盤整備から利活用の推進に重点が移行している
2. 費用対効果検証の重要性が求められている
3. 情報セキュリティ対策の強化が求められている

○問題点・課題

1. IT調達に関する専門知識不足
2. IT調達指針の未整備
3. 庁内チェック体制が不十分

(2) 取組状況



(3) 情報システム調達ガイドライン



基本方針

(マネジメントに関する方針)

- ① 調達ライフサイクルベースの調達管理
- ② 組織全体としての知識の蓄積・活用と継続的改善

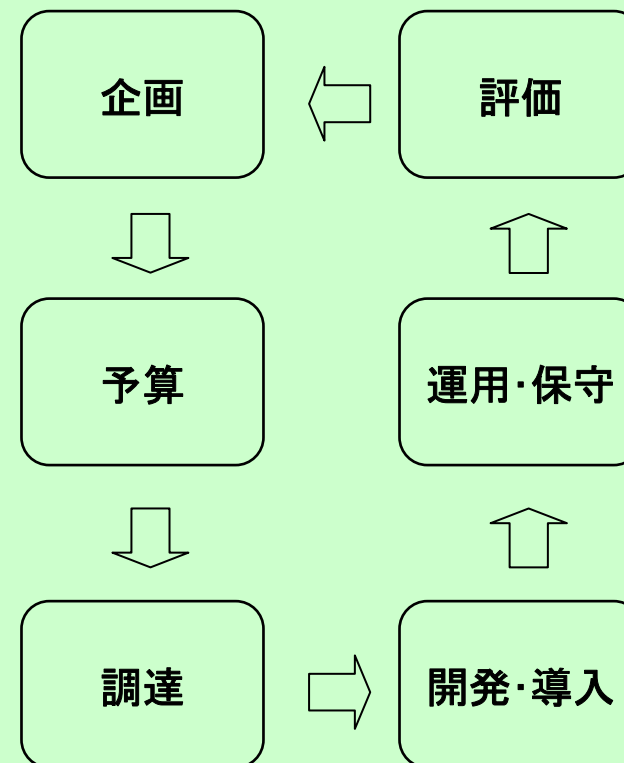
(体制に関する方針)

- ③ 発注者責任の明確化
- ④ 契約における責任分担明確化
- ⑤ 専門知識体制の確保(人的、組織体制)

(情報システムの体系に関する方針)

- ⑥ 業務改善による効率化の優先
- ⑦ 情報セキュリティ対策の徹底
- ⑧ 情報システムに係る統一的体系の策定
- ⑨ 合理的な契約単位の分割

ライフサイクル

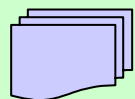


※ライフサイクルの各フェーズで必要な調達管理を実施

(3) 情報システム調達ガイドライン

ガイドライン構成

(本編)

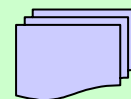


調達の基本方針及び各章における基本的な考え方と業務手順について記載

(各章の構成)

- ◇ 概要
- ◇ 基本原則
- ◇ 調達フロー図
- ◇ 調達業務の解説

(分冊)



業務実施する際に必要となる様式、サンプル、解説を分冊文書としてとりまとめ

(分冊の内容)

- ◇ 詳細解説
- ◇ 様式
- ◇ サンプル

(必要により追加、修正)

(4) 運用保守費用検証

運用保守委託契約支援

運用保守経費の比較的多いシステムを中心に、運用保守仕様書、見積内訳の精査を支援した

⇒18年度予算額 約17百万円削減

(運用保守仕様書)

発注者が作成

- ・サービスレベル明確化
- ・委託業務の明確化
- ・業務実績報告明記

(見積内訳書)

仕様書に基づき
保守業者が見積り

提示
⇐
回答

妥当性チェック

次年度以降は業務実績に基づき必要性チェック

(5) 主要システム支援

総合情報システム調達支援

○競争原理の維持

- 入札仕様書に基づく価格のみの入札方法を検討
(応札が大手企業のみで限定的になる可能性懸念)
<対策>
- 市場シェア上位のベンチャー系企業参加の可能性を考慮し、企画提案コンペを実施
- 2年目以降の運用保守費用を含めた総合評価で審査

○分割発注の実施

一括発注



分割発注

- 総合情報システム
- パソコン・プリンタ
- 設備工事
- その他

予算額から3億円強
の削減

地元企業の参加
機会拡大

(6) H18年度取組み

H18年度取組み

○調達ガイドラインの利用普及と内容拡充

(利用普及)

- 庁内説明会実施
- 調達ガイドライン活用実践研修

(内容拡充)

- 見積妥当性の確認
- 技術標準

○運用保守業務の標準化

- 運用保守委託業務基準

○共通基盤整備方針

- 共通基盤整備方針の検討

(7) 全体最適化の実現

情報システム全体最適化の実現

- 適切な情報システム導入、運用管理
- 最適な情報システム共通基盤の整備

